

暗唱文テストで育成する表現の能力

共同研究

〈代表者〉広島県立福山葦陽高等学校 教諭

広島大学大学院博士後期課程在籍 門田 直美

概要

本研究の目的は英文を暗唱することにより、国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価の観点及び趣旨」の「表現の能力」が定義とする「外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する」力の育成が図れることを検証することである。

1・2年生を対象に6割を到達目標とする暗唱文テストを週1回実施し、すぐに採点を行ってテスト実施日に返却し、基準点に到達しない生徒に課題を提出させた。1・2年生全員に同じ時間帯に共通テストを実施・返却し、スピーディーなフィードバックを行い、英語科だけでなく担任・副担任など多くの教員が情報を共有し迅速に一致協力して指導を行うことで集団の教育力を活用して生徒の学習意欲を喚起した。また、毎週少しずつ覚えた暗唱文を基盤に、1年生を対象に総復習暗唱文テスト、英語で日記を書かせるジャーナル・ライティング、スピーチ・テスト、インタビュー・テストを行い「表現の能力」の育成を図った。

1 はじめに

本研究は広島県立福山葦陽高等学校の1・2年生が英語学力の中で最も苦手とする「表現の能力」の向上をめざし、暗唱文テストの実施により英文を暗唱し書く学習習慣をつける指導を行った実践研究である。1年生320名、2年生316名、各学年8クラスの全生徒を対象に週1回一斉に暗唱文テストを行って即日返却し、正答率が6割に到達しない生徒に課題を提出させ結果を検証した。本校1年生が有する英検資格は3級が10%未満の取得率であり、英語を苦手とする生徒が多い状況で英語学力を向上させる

効果的な方法として暗唱文テストを考案した。

1.1 背景

平成16年4月本校へ赴任し、平成15年度広島県共通学力テスト^(注1)の1・2年生の結果から「理解の能力」^(注2)や「知識・理解」^(注3)と比較し、特に「表現の能力」の得点率が低い点に注目した。「理解の能力」、「知識・理解」の正答率は、1年生が46.6%と66.8%、2年生が39.6%と38.6%に対し、「表現の能力」は1年生38.6%、2年生18.0%であり、特に英文を書く問題で1年生26.9%、2年生が6.7%と正答率が非常に低く、無答率も1年生34.3%、2年生51.1%と大変高かった。したがって、「表現の能力」の育成を本校の最優先課題ととらえ、英語科へ問題点を提起した。

1.2 目的

本研究の目的は、暗唱文テストを活用して「表現の能力」を育成し「外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する」力を向上させ、暗唱テストの効果を検証することである。暗唱文は生徒の学力に合わせて平易な英文を提示し、英語を苦手とする生徒にも親しみやすい身の回りの表現として「出会い」、「電話」などのテーマを設定し、暗唱指導を徹底させて「表現の能力」を育成し、ライティングやスピーキングの力をつけたいと考えた。

英語を苦手とする生徒に効果的な指導法として暗唱文テストを考案し、1・2年生あわせて600名以上の全生徒を対象に一斉にテストを実施し、基準点に達しない生徒に対し即座に指導を行うことで英語を書いたり話したりする基礎力をつけ、その力を基盤に「表現の力」を育成し、暗唱文テストの効果の検証を行うことを研究目的とする。

2 暗唱文テストの実施

2.1 実施方法

暗唱文テストは担任を中心に各学年団の協力を得て1・2年生とも同じ問題で週1回朝のSHR（ショートホームルーム）の5分間に一斉に行い、実施日の終わりのSHRで返却した。和文英訳の形式で1問2点で5問出題し10点満点で正答率6割以上を合格とした。不合格の場合は放課後などの時間を設定し、テスト問題の和文を1回、英文を5回書いて提出させた。

2.2 テスト問題

暗唱文は本校生徒が1年次に使用するOCIの教科書“Departure”（大修館書店）と副教材“NET”（文英堂）を中心に他の暗唱文例集^{（注4）}を参考にして、生徒の英語学力と学習意欲を配慮して親しみやすい例文を選定して作成した（資料1）。多くの暗唱文例集が文法中心の配列になっているが、授業で多用するクラスルーム・イングリッシュをはじめ、コミュニケーションに必要な基本的な表現を先に配列し、文法項目に基づく例文は日常テーマの後に入れた。

生徒が英語に親しみ、興味を持つことが重要であると考え、高校生の身の回りの話題からテーマを設定し、平易な表現を中心に毎週「出会い」、「電話」などのテーマの英文を配列し、プリント1枚にまとめ生徒に配布した。

2.3 フィードバック

学習リズムを確立するためにテスト実施日に返却を行い、合格点に達しない5点以下の不合格者と欠席者に対し課題提出を義務付けた。課題はテスト範囲の和文1回と英文5回を書いて提出させることとし、提出期限を1年生は実施当日の午後5時に、2年生は翌日以降の授業に設定した。また、1年生は担任の協力を得て実施日の翌日のSHRで、課題提出をしなかった生徒と欠席者に対し提出を促した。

全生徒にスピーディーなフィードバックを行い、英語科だけでなく多くの教員が情報を共有し迅速に指導することで集団の教育力を活用し、生徒の学習意欲を喚起した。学校全体で一致協力して取り組むことで苦手な「表現の能力」の育成に向かい、暗唱文テストに対する学習を習慣化し、テストに合格で

きなかった生徒は必ずテスト直後に課題を書いて提出させた。

3 暗唱文テストの結果

暗唱文テストは年間24回の実施を計画したが、教科内の調整や学年会への提起までに時間を要し、また「朝読」^{（注5）}など学校行事の関係で5月からの開始となった。したがって、1学期6回、2学期6回、3学期4回の計16回の実施となった。

3.1 平均点

テーマを設定し16回行った暗唱文テストの、1・2年生及び全生徒の10点満点における平均点の推移は表1のとおりである。2年生は前年度実施しなかったため暗唱に関する学習習慣がなく、最初は1年生より数値が低かったが、慣れてきて学年末には1年生の数値を上回った。なお、2年生は修学旅行のため第7回を実施することができなかった。

■ 表1：暗唱文テスト平均点推移

回（実施日）	テーマ	1年	2年	全体
1回（5/13）	出会い	4.8	3.8	4.3
2回（5/27）	授業1（先生）	5.4	3.2	4.3
3回（6/3）	授業2（生徒）	7.2	5.5	6.3
4回（6/10）	授業3	6.1	5.0	5.6
5回（6/17）	授業4	6.0	5.3	5.7
6回（6/24）	訪問	6.2	5.3	5.7
7回（10/29）	電話1	6.9	—	6.9
8回（11/4）	電話2	6.1	3.1	4.6
9回（11/11）	買い物	6.8	4.4	5.6
10回（11/18）	食事	5.8	5.0	5.4
11回（11/25）	道案内1	6.0	5.3	5.6
12回（12/16）	道案内2	4.6	5.2	4.9
13回（1/13）	依頼1	6.6	6.4	6.5
14回（1/20）	依頼2	6.8	7.1	7.0
15回（2/10）	トラブル1	6.9	6.4	6.7
16回（2/24）	トラブル2	6.8	7.1	6.9
平均点		6.2	5.2	5.7

3.2 合格者の割合

10点満点のテストで6点以上得点した合格者の全体に占める割合（％）の第1回から第16回までの推

■ 表 2：暗唱文テスト合格率の推移（％）

回（実施日）	テーマ	1 年	2 年	全体
1 回（5/13）	出会い	35.1	27.0	31.1
2 回（5/27）	授業 1（先生）	51.7	26.3	39.0
3 回（6/ 3）	授業 2（生徒）	76.4	50.3	63.3
4 回（6/10）	授業 3	64.4	45.3	54.8
5 回（6/17）	授業 4	63.5	52.7	58.1
6 回（6/24）	訪問	60.2	52.2	56.2
7 回（10/29）	電話 1	72.2	—	72.2
8 回（11/4）	電話 2	61.5	26.4	43.9
9 回（11/11）	買い物	68.1	40.2	54.1
10回（11/18）	食事	61.0	48.2	54.6
11回（11/25）	道案内 1	61.9	49.5	55.7
12回（12/16）	道案内 2	62.9	46.1	54.5
13回（1/13）	依頼 1	42.5	50.2	46.4
14回（1/20）	依頼 2	60.4	60.0	60.2
15回（2/10）	トラブル 1	60.7	59.7	60.2
16回（2/24）	トラブル 2	65.6	66.7	66.2
平均		60.5	46.7	53.6

■ 表 3：暗唱文テスト満点の生徒の割合（％）

回（実施日）	テーマ	1 年	2 年	全体
1 回（5/13）	出会い	13.4	6.0	9.6
2 回（5/27）	授業 1（先生）	12.7	7.9	10.3
3 回（6/ 3）	授業 2（生徒）	28.3	14.6	21.3
4 回（6/10）	授業 3	17.9	13.6	15.7
5 回（6/17）	授業 4	17.3	18.7	18.0
6 回（6/24）	訪問	20.8	17.1	18.9
7 回（10/29）	電話 1	18.9	—	18.9
8 回（11/4）	電話 2	18.6	8.9	13.6
9 回（11/11）	買い物	24.1	14.6	19.3
10回（11/18）	食事	11.7	10.1	10.9
11回（11/25）	道案内 1	11.7	16.9	14.0
12回（12/16）	道案内 2	14.3	16.1	15.1
13回（1/13）	依頼 1	10.4	21.5	16.1
14回（1/20）	依頼 2	20.5	28.5	24.0
15回（2/10）	トラブル 1	24.8	23.7	24.2
16回（2/24）	トラブル 2	22.5	33.5	28.1
平均		18.0	16.5	17.4

■ 表 4：各学年 0 点の生徒と欠席者の割合（％）

実施回	1 年			2 年			平均		
	0点	欠	計	0点	欠	計	0点	欠	計
1 回（5/13）	10.4	9.8	20.2	16.5	13.0	29.5	13.5	11.4	24.9
2 回（5/27）	9.4	5.2	14.6	36.7	15.8	52.5	23.3	10.6	33.9
3 回（6/ 3）	4.2	3.9	8.1	10.8	12.7	23.5	7.5	8.3	15.8
4 回（6/10）	5.5	5.5	11.0	17.7	13.9	31.6	11.7	9.8	21.5
5 回（6/17）	5.5	4.9	10.4	20.3	10.1	30.4	13.0	7.5	20.5
6 回（6/24）	11.1	6.2	17.3	24.1	13.3	37.4	17.7	9.8	27.5
7 回（10/29）	3.9	8.5	12.4	—	—	—	3.9	8.5	12.4
8 回（11/4）	10.7	10.7	21.4	43.4	13.3	56.7	27.3	12.0	39.3
9 回（11/11）	4.6	13.0	17.6	23.4	14.9	38.3	14.1	14.0	28.1
10回（11/18）	14.0	13.7	27.7	23.4	15.8	39.2	18.8	14.8	33.6
11回（11/25）	13.4	11.7	25.1	24.6	12.7	37.3	18.2	12.2	30.4
12回（12/16）	6.2	8.8	15.0	21.6	16.9	38.5	12.9	12.3	25.2
13回（1/13）	20.8	12.1	32.9	10.1	16.5	26.6	15.4	14.3	29.7
14回（1/20）	6.5	16.0	22.5	7.5	16.3	23.8	7.0	16.1	23.1
15回（2/10）	3.9	18.6	22.5	12.0	15.5	27.5	8.0	17.0	25.0
16回（2/24）	1.3	14.3	15.6	5.4	12.7	18.1	3.4	13.5	16.9
平均	8.2	10.2	18.4	19.8	14.2	34.4	13.5	12.0	25.5

移は表 2 のとおりである。

3.3 満点の生徒の割合

満点を取った生徒の全体に占める割合（％）は表 3 のとおりである。英語の学力が高くてもテストの準備を全く行わないためほとんど不合格となった生徒がいた一方で、英語が苦手であってもやる気があれば満点を取ることのできる簡単な問題であったため、定期考査の成績がよくなっても常に満点を取った生徒がいた。

また、聞き取り調査やアンケート調査により、英語が得意ではない生徒であっても「楽しい」と感じ、満点を取り続け英語全般の成績を向上させた生徒もいた。易しいテストであっても満点を取ればうれしいと感じて自信につながり、学習意欲を高める効果があった。

3.4 0点及び欠席者の割合

各学年における 0 点の生徒と欠席者の全体に占める割合（％）と平均は表 4 のとおりである。全く暗唱を行わなかった 0 点の生徒の割合は、修学旅行のために第 7 回テストを実施しなかった 2 年生で第 8 回テストが 43.4％と最も多く、1 年生も冬休み明けの第 13 回テストが 20.8％と多かった。しかし、最終回の第 16 回では 1 年生 1.3％、2 年生 5.4％と著しく減少した。

3.5 不合格課題の提出状況

1 年生のテスト実施日と後日における欠席者を含めた不合格課題の提出状況は、表 5 のとおりである。実施日に提出した生徒の割合は、第 1 回から第 6 回の 1 学期は多かったが、2 学期の第 7 回から減少した。最終的に提出しなかった生徒の割合は、1 学期は 5％未満であったが、2 学期には 7％を超える回もあり、提出に向けて指導する期間が十分に取れなかったため、最終回は 15.6％にも増加した。なお、2 年生は授業で提出としたが、提出状況の把握ができていない。

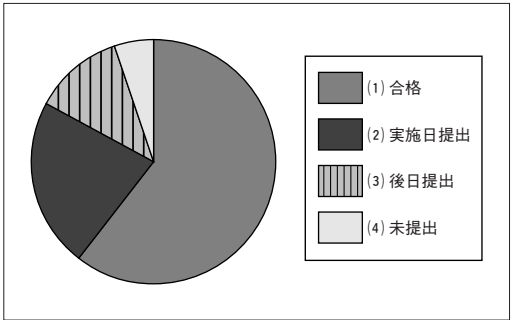
次の図 1 は 1 年生が合計 16 回実施した暗唱文テスト平均の (1)「合格者」60.5％、(2)「5 点以下で不合格となり課題を実施日に提出した生徒」22.4％、(3)「課題を後日提出した生徒」11.9％、(4)「課題未提出の生徒」5.2％の全体に占める割合を示したものである。不合格であった 34.3％の生徒が課題を提出し、

合格者と合わせ 94.8％の生徒が暗唱文に取り組んだことになる。

■ 表 5：1 年生の不合格課題の提出率（％）

実施回	不合格	実施日提出	後日提出	未提出
1 回 (5/13)	64.9	58.4	4.2	2.3
2 回 (5/27)	48.3	42.4	1.7	4.2
3 回 (6/ 3)	23.6	17.8	3.9	1.9
4 回 (6/10)	35.6	28.1	5.6	1.9
5 回 (6/17)	36.5	22.9	11.3	2.3
6 回 (6/24)	39.8	31.0	6.5	2.3
7 回 (10/29)	27.8	4.1	17.5	6.2
8 回 (11/4)	38.5	16.1	17.5	4.9
9 回 (11/11)	31.9	9.2	17.8	4.9
10 回 (11/18)	39.0	19.8	14.0	5.2
11 回 (11/25)	38.1	21.2	12.7	4.2
12 回 (12/16)	37.1	17.0	13.0	7.1
13 回 (1/13)	57.5	31.2	19.2	7.1
14 回 (1/20)	39.6	9.1	24.7	5.8
15 回 (2/10)	39.3	14.3	18.2	6.8
16 回 (2/24)	34.4	12.0	6.8	15.6
平均	39.5	22.4	11.9	5.2

▼ 図 1：1 年生の合格、課題実施日提出、後日提出、未提出の割合



3.6 誤答

スピーディーなフィードバックを行い、学習習慣のリズムを確立させることを最優先させたので、生徒が共通して多く間違えた個所の検討があまり行えていない。

表 6 は 10％以上の生徒が間違えた顕著な誤答例である。多い誤答に対しては繰り返し授業で指摘し注意を促したが、冠詞・動詞の活用・複数形などの誤りは常に多く見られた。

■ 表6：暗唱文テスト誤答

項 目	正 答	誤 答
スペリングミス	message phone right	massage phon light
複数形	ideas	idea
パンクチュエーション	ピリオド, クエスチョンマーク, コンマが必要。	左記の記号を書かない, または 不必要なところを書く。
前置詞	on page 7	in page 7
助動詞と be動詞	Where do you come from?	Where are you come from?
副詞	How far?	How long?
冠詞	a, the	左記の冠詞を書かない, または 不必要なところを書く。
3人称単数現在の s	It takes you	It take you
動詞の活用形	Would you mind opening ~?	Would you mind open ~?
大文字と小文字	文頭大文字 文中小文字	文頭小文字 文中大文字

4 意識調査

暗唱文テストが終了した平成17年3月15日（火）に、1年生に対しアンケート調査を行った（資料2）。本校1年生の英語学習と暗唱文テストに対する意識調査の結果は表7のとおりで、表の数字は調査に回答した1年生288名に占める割合（％）を示す。「英語が得意」と感じている生徒は5.2％と非常に少なく、「英語が好き」と回答した生徒も17.7％と少ない。「どちらでもない」と回答した生徒が両方とも半数を超え、得意になったり好きになったりする可能性があると思われ、定期的に意識調査を行って今後の指導の方向性を決める必要性を感じる。

■ 表7：1年生の意識調査結果（％）

	はい	いいえ	どちらでもない
英語が好き	17.7	31.9	50.4
英語が得意	5.2	24.0	70.8
暗唱（口頭）が好き	9.0	63.6	27.4
暗唱（書くこと）が好き	8.3	62.9	28.8

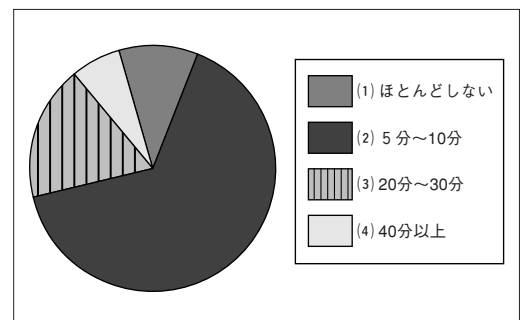
4.1 暗唱時間と速度

1年生が1回当たりの暗唱文テストの英文を覚えるために要した学習時間を調査したところ、図2のとおり、(1)「ほとんどしない」10.4％、(2)「5分～

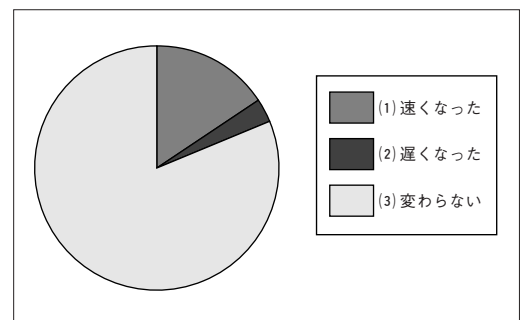
10分」65.3％、(3)20分～30分が17.7％、(4)「40分以上」6.6％であった。

また、図3に英文を覚える速度が「速くなった」と感じた生徒、「変わらない」生徒、「遅くなった」と感じた生徒の割合を示した。(1)「速くなった」

▼ 図2：学習時間



▼ 図3：暗唱速度



15.6%，(2)「遅くなった」3.1%，(3)「変わらない」81.3%と、多くの生徒が変化を感じていないという結果が出た。

4.2 暗唱方法

1年生に対し暗唱文をどのようにして覚えたか学習方法を調査したところ、「口頭」、「筆記」、「口頭と筆記」、「聞いて覚える」、「見て覚える」という学習方法で、表8のとおりであった。また、週1回行ったテストと学年末復習テストの得点率では「聞いて覚える」、「見て覚える」と回答した生徒が低かった。

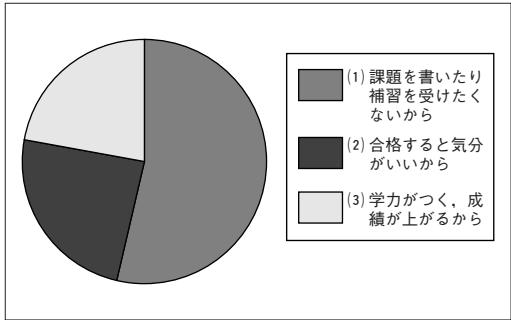
■ 表8：暗唱文テスト学習法の割合とテスト得点率（%）

	口頭	筆記	口頭と筆記	聞く	見る
生徒割合	31.0	35.4	26.9	2.6	4.1
週テスト	58.8	55.7	58.3	34.6	40.4
学年末	61.5	60.8	59.4	31.1	59.3

4.3 学習動機

1年生の暗唱文テストの学習動機は、複数回答で調査したところ図4が示すとおり、(1)「課題を書いたり補習を受けたくないから」と回答した生徒が最も多く、(2)「合格すると気分がいいから」、(3)「学力がつく、成績が上がるから」といった回答が続いた。予測したとおり内発的動機は外発的動機より少なかったが、「合格すると気分がいいから」という回答が予測より多かった。易しいテストであっても合格することで自信をつけながら基礎学力をつけ、自己肯定感を強めていくことが学習意欲を高める。

▼ 図4：学習動機



4.4 暗唱文テストに対する意識

自由記述による感想の中には、暗唱文テストを肯定的にとらえた次のようなものがあった。

楽しい。英語の成績が上がった。
暗唱で英語がすぐ頭に入るようになった。
他の英文も覚えたい。余裕でできた。
知らない単語が覚えられてよかった。
映画を見て知っている英文を聞くとうれしい。
合格するとうれしいので努力した。
日常使う言葉だから役立つ。
とても役立つと思う。
英語の基礎力がつく。
勉強になる。
最低限の会話だと思う。
難しいができたときは満足感がありよかった。
大変だけど英語を覚えたらうれしい。
面倒だけど役立つ。
少し難しいけどいいと思う。
面倒だけどあったらいい。
5問は適当。

一方、否定的な意見は次のようなものがあった。

覚えるのが面倒。
なかなか覚えられず難しい。
精神的苦痛を感じる。
5文覚えるのが大変。
暗唱文を覚える必要性を感じない。
簡単なものは覚えやすいが覚えてもすぐ忘れる。
これまでやったことがなかったので大変だった。
5問を4問に減らしてほしい。
覚えたが頭に残っていない。
毎週はきつい。

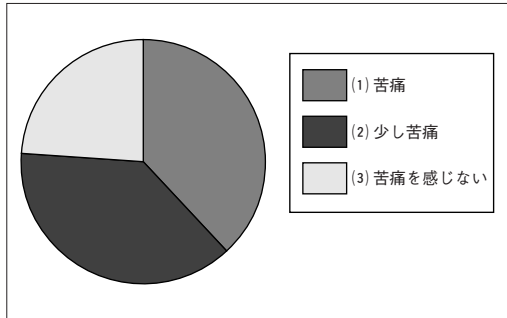
暗唱文テストを苦痛を感じる生徒が多い反面、やっているうちに慣れ、あまり苦痛と思わなくなった生徒や楽しいと感じるようになった生徒がいた。

図5は暗唱文テストに対する生徒の意識を示す。(1)「苦痛」と(2)「少し苦痛」が38.5%と同じ割合で多く、(3)「苦痛を感じない」と回答した生徒の割合は23.0%と最も少なかった。

しかし、「苦痛」という回答が大多数を占めることを予測したので、むしろ「苦痛ではない」という回答が全体の1/4程度あり、自由記述では「楽しい」といった感想も見られたのは予想外で、自信をつけ自己肯定感を強め、学習意欲を高めることで学力を向上させた生徒がいたのはうれしい結果だった。今

後意識調査を定期的に行い指導の方向性を探る参考にしたいと考える。

▼ 図5：暗唱文テストに対する意識



5 諸テストの成績

5.1 広島県共通学力テスト

平成16年11月実施の広島県共通学力テスト1・2年生共通「表現の能力」を問う条件自由英作問題⑩（資料3）の結果は表9のとおりである。この問題の採点基準は「問いを正しくとらえた内容であれば、表現は異なってもよい」となっており「3文以上の英文で、正しく書かれているものを正答」、「3文以上の英文で、綴り、大文字・小文字の使い分けなどに細かいミスがあるもの、また2文の英文で正しく書かれているものを準正答」としている。

表10が示すとおり平成15年度の条件自由英作問題⑩（資料4）に比べ、平成16年度は正答及び準正答率が上昇し、無答率が大きく減少した。また、4文以上書いた生徒数も3倍近く増加した。正答及び準正答率の上昇と無答率の減少から、英文を書くことへの抵抗感が弱まり「関心・意欲・態度」^(注6)の改善が見られる。

しかし、基礎的な問題はおおむね確実に正答とす

■ 表9：平成16年度広島県共通学力テスト⑩ 正答率と無答率（％）

1年	平成15年度	平成16年度
正答及び準正答率	26.9	83.9
無答率	34.3	3.9
2年	平成15年度	平成16年度
正答及び準正答率	6.7	58.6
無答率	51.1	12.7

る力をつけてきたが、読解問題の誤答率が高いという課題が残り、今後の指導方向の重要課題としてとらえる必要性が明確になった。

5.2 1年生学年末暗唱文復習テスト

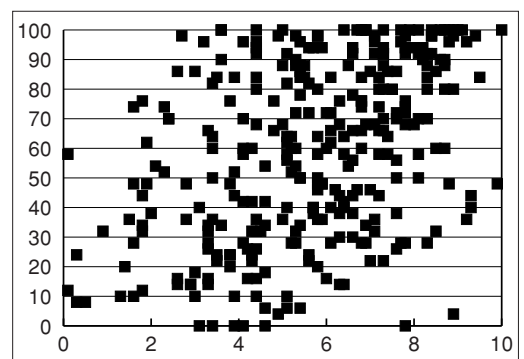
1年生は1年間の総復習として16回行った暗唱文テストの中から50問を選んで提示し、3月11日（金）に50問中25問を出題し一斉にテストを行った（資料5）。1問4点100点満点で採点した307名の平均点59.3点、正答率60％を超えた生徒の割合52.2％で、得点別分布は次の表10のとおりである。

■ 表10：1年生学年末暗唱文復習テスト成績分布

得点	生徒数(名)	単純割合(%)	累積割合(%)
100	21	6.8	6.8
90 - 99	44	14.3	21.2
80 - 89	36	11.7	33.0
70 - 79	27	8.8	41.8
60 - 69	32	10.4	52.2
50 - 59	24	7.8	60.0
40 - 49	30	9.8	69.8
30 - 39	31	10.1	79.9
20 - 29	29	9.4	89.3
10 - 19	21	6.8	96.1
0 - 9	12	3.9	100.0

次の図6は1年生が週1回行った暗唱文テストの平均点（横軸10点満点）と学年末暗唱文復習テスト（縦軸100点満点）の相関を示す。

▼ 図6：暗唱文テストと学年末復習テストの相関



学年末暗唱文復習テストの主な誤答は次の表11が示すとおりである。

5.3 BACE テストの結果

本校1・2年生が平成16年5月と平成17年2月に受験したコミュニケーション能力を測る英語運用能力評価協会の「BACE テスト^(注7)」(300点満点)の成績は表12、表13のとおりであった。

次に表14で第1回及び第2回 BACE テストにおけ

る成績伸長度(第2回 BACE テスト得点から第1回 BACE テスト得点を引いた点)を示す。

BACE テストは語彙・文法(VG)、リスニング(L)、リーディング(R)の3分野各100点満点に分かれており、第1回及び第2回 BACE テストにおける各分野別成績伸長度を表15が示す。

■ 表11：学年末暗唱文テスト誤答

項 目	正 答	誤 答
スベリングミス	happening pardon	happning parden
前置詞	Something is wrong with ～	Something is wrong ～
冠詞	the answer a question	answer question
3人称単数現在のs	It takes ～	It take ～
動詞の活用形	How about going ～?	How about go ～?
動詞	leave a message	take a message
助動詞	May I ～?	Will you ～?

■ 表12：第1回 BACE テストの成績分布(人数)

得点	1 年	2 年	合計
270 - 300			
240 - 269	1		1
200 - 239	1	1	2
160 - 199	9	23	32
120 - 159	127	124	251
80 - 119	143	131	274
40 - 79	19	21	40
平均点	117.5	118.4	118.0

■ 表13：第2回 BACE テストの成績分布(人数)

得点	1 年	2 年	合計
270 - 300	1		1
240 - 269	0	3	3
200 - 239	15	16	31
160 - 199	110	74	184
120 - 159	151	150	301
80 - 119	23	57	80
40 - 79	2	1	3
平均点	153.9	146.7	150.3

■ 表14：BACE テスト成績伸長度分布(人数)

伸長度(点)	1 年	2 年	合計
100 - 120	4	1	5
80 - 99	12	7	19
60 - 79	43	31	74
40 - 59	79	71	150
20 - 39	84	81	165
0 - 19	53	68	121
(-20) - (-1)	13	25	38
(-40) - (-21)	4	3	7
(-60) - (-41)	2	0	2
(-110) - (-61)		1	1
平均点	36.3	28.5	32.4

■ 表15：BACE テスト分野別成績伸長度分布(人数)

伸長度(点)	1 年			2 年			合計		
	VG	L	R	VG	L	R	VG	L	R
40 - 59	3	15	11	3	15	10	6	30	21
20 - 39	102	103	58	88	78	41	190	181	144
0 - 19	177	143	146	171	159	123	348	302	269
(-20) - (-1)	16	38	70	33	39	104	49	77	174
(-40) - (-21)	1	1	22	4		19	5	1	41
(-60) - (-41)			1			3			4
平均点	14.9	15.9	5.6	13.5	13.8	1.3	14.2	14.9	3.5

6 ジャーナル・ライティング とパフォーマンス・テスト

暗唱文テストを基盤として、さらに「表現の能力」の育成に向けて取り組んだ1年生の活動は、ジャーナル・ライティング、スピーチ・テスト、インタビュー・テスト、音読テストである。暗唱文テスト同様、これらはすべて前年度までは指導を行わなかった言語活動で、教科内に不安を示す意見もあったが、生徒が興味を示し熱心に取り組んだので、実施はこのほかスムーズに運んだ。

暗唱文テストにより英文を口頭で反復したり書いたりする練習を積んだことで、これらの言語活動への抵抗感が弱まり、うまくいったように感じる。

6.1 ジャーナル・ライティング

決まった暗唱文を覚えるだけでは単調で応用力が育たないと考え、1年生は各学期2回のジャーナル・ライティングを試みた。「連休」、「夏休み」、「美術館訪問」などについて、不定詞や分詞などの文法事項を指定し、50語程度の英文を書かせ、1年の終わりには「新年の抱負」をテーマに100語の英文を書かせ提出させた。提出された英文はスペリングや文法ミスを指摘して返却し、書き直して暗記させ各学期の定期考査の問題に加えた。年度末には情報の先生方と連携し、情報の授業で原稿をパソコンにタイピングさせ、文集を作成した。

6.2 スピーチ・テスト

1学期に“Show & Tell”で写真や絵などの小道具を示しながらスピーチを行って自己紹介をさせ、3学期に「新年の抱負」をテーマにジャーナル・ライティングで書いた文を暗写できるまで反復練習させ、発音やスピーチの仕方について指導を行い、2～3分程度のスピーチを行わせた。その際、スピーチ原稿は暗唱して原稿を見ずにスピーチを行うように指示し、JTEとALTが協力して評価を行った。全生徒のスピーチをVTRに録画することで適度な緊張感が生まれいい結果が残せた。

6.3 インタビュー・テスト

暗唱文テストに出題した英文の定着度を測るため、1年生がOCIで学習した内容に即して2分程度ALTによるインタビュー・テストを行い、生徒と

ALTの会話を録音した。

6.4 音読テスト

1年生に対し英語Iの教科書Vivid English Course I（第一学習社）のCDを購入させ、授業だけでなく家庭でも各自繰り返しネイティブ・スピーカーの英語を聞いて練習させ、1人1ページぐらいずつ、音読テストを年間通して毎月1回程度定期的に行った。

7 成果と課題

「表現の能力」の弱点補強を第1目標に英語学力の育成をめざし、前年度まで行っていなかった指導として、暗唱文テストを出発点として進展し、1年生はジャーナル・ライティング、スピーチ・テスト、インタビュー・テスト、音読テストを授業に取り入れることができた。一気に授業改革を推進することができ、観点別評価により各観点の学力のバランスを見ながら授業計画や評価計画を立てることが可能となり、本校では従来指導があまり行われなかった「表現の能力」の指導を計画的に行うことができ、暗唱文テストや諸テストの結果に一定の成果が現れたと思われる。平成17年度も暗唱文テストを継続して行うという英語科や学年団の共通認識が得られ、第17回から開始する予定である。

今後の課題として、1年生だけでなく2年生でも継続してジャーナル・ライティングやパフォーマンス・テストを行い、またSHRで他教科の先生方の協力を得なくても英語科だけで授業を中心に継続的に「表現の能力」を育成する指導を行い、さらに目下の弱点である「理解の能力」の育成に向けて取り組んでいきたい。

謝 辞

貴重な研究機会を与えていただき、温かい協力と助言をしていただいた羽鳥博愛先生、(財)日本英語検定協会に心より感謝申し上げます。また、本実践研究の実施に際し配慮と支援をしていただいた広島県立福山葦陽高等学校の森野敏郎校長先生、共同研究者として指導計画作成やスピーチ・テストの録画・編集などさまざまな作業に全面的に協力していただいた立山敏行先生、指導の実施に快く協力して

いただいた英語科の諸先生方、1 学年団と 2 学年団の先生方に深くお礼申し上げます。さらに、夏休みや休日までもお忙しい中、英語研究の進め方に関して丁寧に指導していただいた広島大学大学院の三浦

省五教授、優しく励ましていただいた広島総合大学の田邊達雄先生に大変お世話になりました。皆様から心からお礼申し述べます。ありがとうございました。

注

- (1) 広島県では平成15年度から11月に1・2年生を対象に共通学力テストを実施している。次の URL 参照。
<http://www.pref.hiroshima.jp/kyouiku/hotline/koutou.htm>
- (2) 国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価の観点及び趣旨」の「理解の能力」が示す「外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する」ことを定義とする。
- (3) 上記(2)と同様、「外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している」ことを定義とする。
- (4) 桐原書店「フォワード新高校英語暗唱文例集」、桐原書店「マスタリー新高校英語暗唱文例集」、中央図書「実力アップ英語構文160の演習暗唱文例集」、中央図

書「速攻英語構文130暗唱例文集」

- (5) 本校は平成16年度及び17年度国立教育政策研究所の「ことばの教育」の研究指定校として朝の SHR など読書を行っており、9 月は毎朝読書活動を行ったため暗唱文テストを実施することができなかった。
- (6) 上記(2)、(3)と同様、「コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする」ことを定義とする。
- (7) Basic Assessment of Communicative English を BACE と省略し、語彙・文法、リーディング、リスニングの3分野各100点計300点の問題構成で「項目応答理論」を中心とした解析で絶対値スコアで評価を行う。

参考文献

- 三浦省五（編）。（1993）。『英語の学習意欲』。東京：大修館書店。
- 三浦省五（監）。（2004）。『英語教師のための教育データ分析入門』。東京：大修館書店。
- 文部科学省。（2002）『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（第3版）。東京：開隆堂出版。

- 大友賢二。（2002）。『テストで言語能力は測れるか』。東京：桐原書店。
- 田中正道（編）。（1999）。『伝達意欲を高めるテストと評価』。東京：教育出版。
- 辻新六・有馬昌宏。（1987）。『アンケート調査の方法』。東京：朝倉書店。

資料1：広島県立福山葦陽高等学校暗唱文

1 <出会い>

- (1) あなたにケンを紹介しましょう。
Let me introduce Ken to you.
- (2) はじめまして。(?)
How do you do?
- (3) あなたにお会いできてうれしいです。
I'm glad to meet you.
- (4) 出身はどこですか?
Where do you come from?
- (5) お名前と住所を教えてくださいませんか?
May I have your name and address?

2 <授業1—先生>

- (1) 教科書7ページを開きなさい。
Open your textbook to page 7.
- (2) 7ページ2段落を読みなさい。
Read the second paragraph on page 7.
- (3) もう少し大きな声で話さない。
Speak a little louder.
- (4) だれかやってみませんか?
Any volunteers?
- (5) わかった人は手をあげなさい。
Raise your hand if you know the answer.

3 <授業2—生徒>

- (1) 質問していいですか?

May I ask a question?

- (2) もう一度言ってもらえますか?
Would you say that again, please?
- (3) すみません。答えがわかりません。
I'm sorry. I don't know the answer.
- (4) ええっと。
Let me see.
- (5) 2枚足りません。
We're two short.

4 <授業3>

- (1) あなたの意見は?
What's your opinion?
- (2) 私の意見はケンに賛成です。
In my opinion, I agree with Ken.
- (3) あなたの言いたいことはわかります。
I know what you mean.
- (4) 私はそう思わない。
I don't think so.
- (5) "stew" を何と発音するか教えてください。
Please tell me how to pronounce "stew."

5 <授業4>

- (1) 彼の考えに賛成ですか反対ですか?
Are you for or against his idea?

- (2) よくわかりません。

I have no idea.

- (3) そのとおり。

You're right.

- (4) 他に考えがありますか？

Do you have any other ideas?

- (5) 「環境」は英語で何と言うのですか？

How do you say "kankyo" in English?

6 <訪問>

- (1) クッキーを自由にお召し上がりください。

Please help yourself to cookies.

- (2) すてきな食事をありがとう。

Thank you for a nice meal.

- (3) トイレをお借りできますか？

May I use your bathroom?

- (4) もう帰らなければなりません。

I must be going now.

- (5) 家族の方によろしく言ってください。

Please say hello to your family.

7 <電話 1>

- (1) 電話を借りていいですか？

May I use your telephone?

- (2) もしもし、こちらはケンです。

Hello, this is Ken speaking.

- (3) マリさんをお願いします。

May I speak to Mari, please?

- (4) マリにつなぎます。

I'll put you through to Mari.

- (5) どうしたの？

What's up?

8 <電話 2>

- (1) 話中です。

The line is busy.

- (2) どちら様でしょうか。

May I ask who's calling?

- (3) マリは今不在です。

I'm afraid Mari is out now.

- (4) 伝言を伝えてもらえますか？

Can I leave a message?

- (5) 電話してくれてありがとう。

Thank you for your calling.

9 <買い物>

- (1) いらっしゃいませ。

Can [May] I help you?

- (2) 何かお探しでしょうか？

Are you looking for something?

- (3) このズボンを試着していいですか？

Can I try these pants on?

- (4) おいくらですか？

How much does it cost?

- (5) 現金で払いましょうか？

Shall I pay you in cash?

10 <食事>

- (1) 予約しておられますか？

Do you have a reservation?

- (2) 喫煙席と禁煙席のどちらがいいですか？

Which do you prefer, the smoking or non-smoking section?

- (3) 何を召し上がりますか？

What would you like to have?

- (4) 今回は私のおごりです。

This is on me.

- (5) 釣りはとっておいてください。

Keep the change.

11 <道案内 1>

- (1) 私は道に迷っています。

I'm lost.

- (2) 駅へ行く道を教えてくださいませんか？

Will you tell me the way to the station?

- (3) ここから駅まで距離はどれくらいですか？

How far is it from here to the station?

- (4) バスはどのくらいの間隔で走っていますか？

How often does the bus run?

- (5) すみません。私はここは不案内です。

Sorry, I'm a stranger here.

12 <道案内 2>

- (1) 1 区画まっすぐ行ってください。

Go straight for one block.

- (2) 2 つ目の信号で右に曲がってください。

Turn right at the second light.

- (3) ここから病院へどうやって行けばいいですか？

How can I get to the hospital from here?

- (4) 歩くには遠すぎます。

It is too far to walk.

- (5) あなたがそこへ行くのに 2 時間かかります。

It takes you two hours to go there.

13 <依頼 1>

- (1) お願いがあるのですが？

Will you do me a favor?

- (2) 事と次第によるね。何なの？

It depends. What is it?

- (3) 車を洗うのを手伝ってくださいませんか？

Will you help me clean the car?

- (4) 窓を開けていただけませんか？

Would you mind opening the window?

- (5) はい、いいですよ。

Of course not. [Not at all.]

14 <依頼 2>

- (1) パーティーに行きませんか？

How about going to the party?

- (2) 私を助けてくれないかなあ。

I wonder if you can help me.

- (3) あなたのペンを借りられますか？

May I borrow your pen?

- (4) いいですよ。

By all means.

- (5) もう一度言ってもらえませんか？

I beg your pardon?

15 <トラブル 1>

- (1) どうしたのですか？

What's the matter? [What's up?]

- (2) 一体何が起きているのですか？

What's happening?

- (3) ごめんなさい。

I beg your pardon.

- (4) 他に何か私にできることがありますか？

Is there anything else I can do for you?

- (5) 特に何もありません。

Nothing particular.

16 <トラブル 2>

- (1) その車はどこが故障していますか？

What's wrong with the car?

- (2) この時計はどこか調子が悪い。

Something is wrong with this clock.

- (3) それはいけませんね。

That's too bad.

- (4) あなたに迷惑をかけてすみません。

Sorry to bother you.

- (5) 心配しないで。

Don't worry.

17 <その他の会話表現>

- (1) 頑張れ（むきになるな）。

Take it easy.

- (2) ちょっと待ってください。

Wait a moment.

- (3) 塩を取ってくださいませんか？

Could you pass me the salt?

- (4) いいですよ。さあどうぞ。

Of course. Here you are.

- (5) ありがとう。— どういたしまして。

Thank you. — You're welcome. [Don't mention it. / No problem.]

18 <文の種類>

- (1) だれがドアを開けっ放しにしたの？

Who left the door open?

- (2) あなたは野球は好きではないの？

Don't you like baseball?

- (3) いいえ、好きです。

Yes, I do. I like it.

- (4) あれは何て長い文なんだ！

What a long sentence that is!

- (5) このミルクは何て熱いんだ！

How hot this milk is!

19 <時制 ①>

- (1) 私は毎朝6時頃目が覚める。

I wake up around six every morning.

- (2) 私は新しい机を買うつもりだ。

I am going to buy a new desk.

- (3) ケンは今電話で話しているところだ。

Ken is talking on the phone now.

- (4) 私が部屋に入ったとき、彼は眠っていた。

When I entered the room, he was sleeping.

- (5) 私は丁度昼食を終えたところだ。

I have just finished my lunch.

20 <時制 ②>

- (1) 私は以前あなたに会ったことがある。

I have met you before.

- (2) 彼が来たら、彼女はうれしいだろう。

She will be happy when he comes.

- (3) 私が帰宅すると、彼はすでに来ていた。

When I came home, he had already come.

- (4) 私は来年ここに10年住んでいることになるだろう。

I will have lived here for ten years next year.

- (5) 昨日からずっと雨が降り続けている。

It has been raining since yesterday.

21 <助動詞 ①>

- (1) お邪魔していいですか？

May [Can] I interrupt you?

- (2) 手伝ってもらえませんか？

Will you help me?

- (3) あなたは学校へ行かなければならない。

You must [should] go to school.

- (4) あなたは口に一杯入れて話してはいけない。

You must not talk with your mouth full.

- (5) ケンは昼食を終えたに違いない。

Ken must have finished his lunch.

22 <助動詞 ②>

- (1) 彼はどうしても質問に答えようとしない。

He will not answer the question.

- (2) あなたはそこへ行く必要はない。

You need not go there.

- (3) ここに店があったものだ。

There used to be a store here.

- (4) マリはその話を聞いたかもしれない。

Mari may have heard the story.

- (5) 彼がその川で釣りをしたはずがない。

He cannot have fished in the river.

23 <受動態 ①>

- (1) 彼はケンと呼ばれる。

He is called Ken.

- (2) その本は漱石によって書かれた。

The book was written by Soseki.

- (3) この花は英語で何と呼ばれますか？

What is this flower called in English?

- (4) 携帯電話で話すことは許されていない。

Talking on cell phones is not allowed.

- (5) マリによって新記録が作られるだろう。

A new record will be made by Mari.

24 <受動態 ②>

- (1) 新しい店が建設されているところだ。

A new store is being built.

- (2) 彼の名前はみんなに知られている。

His name is known to everyone.

- (3) 私はそのニュースに驚いた。

I was surprised at the news.

- (4) 赤ん坊はマリに世話をしてもらっている。

The baby is taken care of by Mari.

- (5) 彼は友達に話しかけられた。

He was spoken to by his friend.

資料2：英語学習と暗唱に関するアンケート調査

- () 内の数字は回答数を示す
- 英語は好きですか。
1 好き (51) 2 嫌い (145) 3 どちらでもない (92)
 - 英語は得意ですか。
1 はい (15) 2 いいえ (204) 3 どちらでもない (69)
 - 英検資格を書いてください。
3 級 (21) 4 級 (30) 5 級 (14)
 - 暗唱 (speaking) は好きですか。
1 はい (26) 2 いいえ (79) 3 どちらでもない (183)
 - 暗唱 (writing) は好きですか。
1 はい (24) 2 いいえ (83) 3 どちらでもない (181)
 - SHR 暗唱文テストの英文を覚える時間を書いてください。(分)
 - 暗唱文を覚える速度について教えてください。
1 速くなった (45) 2 変わらない (234) 3 遅くなった (9)
 - 暗唱文を覚える方法を教えてください。
1 口頭で発音して覚える 2 書いて覚える
3 口頭で発音し、書いて覚える 4 聞いて覚える
 - 暗唱文テストに対する印象を教えてください。
1 大変苦痛 2 少し苦痛
3 あまり苦痛ではない 4 苦痛ではない
5 初め苦痛だったが苦痛でなくなった 6 初め苦痛ではなかったが苦痛になった
 - 暗唱文テストの学習動機に対し、該当する項目のすべての番号を書いてください。
1 英語学力がつく (185) 2 英語の成績が上がる
3 合格すると気分がいい (93) 4 楽しい
5 不合格の課題を書きたくない (206) 6 補習・追試を受けたくない
7 不合格だと恥ずかしい 8 先生から注意を受けたくない (5)
 - 英語の学習動機に対し、該当するすべての番号を書いてください。
1 進級・卒業したい 2 進路に必要 3 留学 4 社会・仕事で必要
5 海外旅行で必要 6 教養・文化 7 映画・歌 8 楽しい
9 好き 10 文通・国際交流
 - これからつけていきたい英語学力で、該当するすべての番号を書いてください。
1 英語を話せるようになりたい
2 英語を聞いて理解できるようになりたい
3 英語で自分の言いたいことを書けるようになりたい
4 英語を読んで理解できるようになりたい
5 英語で歌を歌えるようになりたい
6 大学や専門学校等将来の進路先の学習で、困らないだけの学力をつけておきたい
7 将来の職業で困らないだけの学力をつけたい
 - 暗唱文テストに関する印象を自由に書いてください。

資料3：平成16年度広島県共通学力テスト問題

⑩ あなたは、学校で、カナダの高校生とお互いの学校についてメールで情報交換をすることになりました。最初にあなたの自己紹介をし、次にあなとの学校について説明をし、最後に相手の学校について知りたいことをたずねる文を、3文以上の英語で書きなさい。

- 10 健太は先日行われたクラスマッチ（sports day）で、バレーボール（volleyball）の競技に参加し優勝しました。彼はそのことについてイギリスの友達ジョン（John）に手紙を書こうとしています。あなたが健太だったら、どんな手紙を書きますか。次の絵を見て、3文以上の英文で書きなさい。



資料5：学年末暗唱文復習テスト問題

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 出身はどこですか？ | 14 おいくらですか？ |
| 2 質問していいですか？ | 15 駅へ行く道を教えてくださいませんか？ |
| 3 すみません。答えがわかりません。 | 16 ここから駅まで距離はどれくらいですか？ |
| 4 私の意見はケンに賛成です。 | 17 歩くには遠すぎます。 |
| 5 あなたの言いたいことはわかります。 | 18 あなたがそこへ行くのに2時間かかります。 |
| 6 私はそう思わない。 | 19 お願いがあるのですが？ |
| 7 彼の考えに賛成ですか反対ですか？ | 20 車を洗うのを手伝ってくれませんか？ |
| 8 家族の方によく言ってください。 | 21 窓を開けていただけませんか？ |
| 9 電話を借りていいですか？ | 22 パーティーに行きませんか？ |
| 10 マリは今不在です。 | 23 私を助けてくれないかなあ。 |
| 11 伝言を伝えてもらえますか？ | 24 どうしたのですか？ |
| 12 電話してくれてありがとう。 | 25 この時計はどこか調子が悪い。 |
| 13 何かお探しでしょうか？ | |